

処理場用軽量覆蓋
F U B (強化プラスチック複合板)
製 品 仕 様 書

2023年10月

栗本商事株式会社

1. 通則

適用範囲

この仕様書は、処理場において開口部の覆蓋などに使用するFUB板に適用する。

2. 材料・構造・色相

2-1. 材料

製造に用いる樹脂・ガラス繊維・硬質発泡ウレタンは、次の通りです。

- (1) 樹脂は、JIS K 6919（強化プラスチック用液状不飽和ポリエステル樹脂）に適合したもの、又は品質が同等以上のものを使用する。
- (2) ガラス繊維は、JIS R 3412（ガラスロービング）に適合したもの、又は品質が同等以上のものを使用する。
- (3) 硬質発泡ウレタンは、ポリイソシアネート・ポリオール・発泡材を主剤として使用する。

2-2. 構造

- (1) 表面・裏面のFRP板（不飽和ポリエステル樹脂＋ガラス繊維）及び中間部の硬質発泡ウレタンより構成するものとする。
- (2) 片側の面には、滑り止めに有効な突起物を有するものとする。（チェッカー様）

2-3. 色相

標準色（原板在庫有り） グレー・グリーン

注記：特注色について、納期・製作可能数量などの問い合わせを頂きますようお願いいたします。

グレー	日本塗料工業会	N-65 近似
	マンセル値	N-6.5 近似
グリーン	日本塗料工業会	39-50H 近似
	マンセル値	10GY 5/4 近似

3. 性能

性能は、4. 試験に定める方法による試験したとき、下記に示す通りとする。

(1) 形状・寸法・比重・物性は、下記に示す通りとする。

FUB t 33

板厚	33mm
基準幅	700mm
基準長さ	任意 (ただし、3000mm以下)
質量	18kg/m ²
比重	0.55
加工公差	指定寸法 ±3mm
弾性係数	313.6kN/cm ² {32000kgf/cm ² 以上}
曲げ強度	4.9kN/cm ² {500kgf/cm ² 以下}
原板寸法	700mm×3000mm 及び 900mm×3000mm

(2) 外観は、下記に示す通りとする。

表面	汚れ、傷、割れにより著しく美観を損なわないものである事。
端面	表面と同色で塗装され外観上見苦しくない事。
取手	実用上不都合な箇所がない事。
ロック	開閉が容易で、実用上不都合な箇所がない事。

(3) 曲げ強度試験は、下記に示す通りとする。

試験値が下記に示す数値以上になる事。

破壊荷重	3.56kN {363kgf}
弾性係数	313.6kN/cm ² {32000kgf/cm ² }

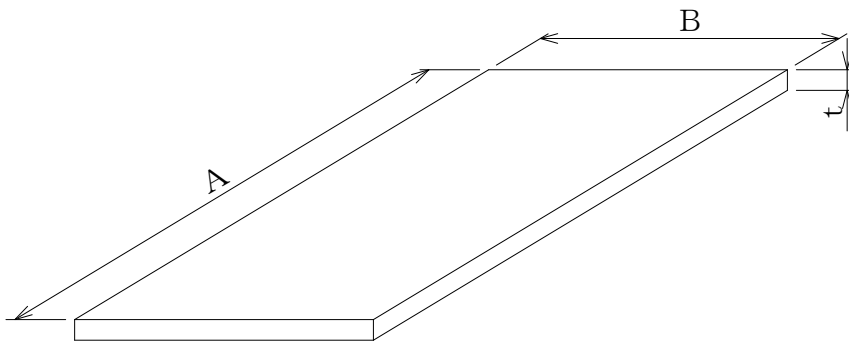
4. 試 験

試験方法は、下記に示す通りとする。（社内規格の数値とする。）

4-1. 寸法検査は、下記に示す通りとする。

幅・長さ 公差は、 $\pm 3\text{ mm}$ とし、メジャー（スチール製 J I S 1 級規格品）にて
1 mmまで測定する。

厚み 公差は、 $+1.5\text{ mm}-0\text{ mm}$ とし、ノギス（J I S 1 級規格品）にて
0.1 mmまで測定する。



※ 長さ = A 幅 = B 厚み = t とする。

抜き取り検査の比率は、蓋の全体枚数に対して、下記に示す通りとする。

1 枚 ~	5 枚	5 0 %
6 枚 ~	1 0 枚	3 0 %
1 1 枚 ~	2 5 枚	2 0 %
2 6 枚 ~	1 0 0 枚	1 0 %
1 0 1 枚 ~	3 0 0 枚	5 %
3 0 0 枚 ~		2 %

4-2. 外観検査は、下記に示す通りとする。

表面・端面は、目視及び手触りによって判定する。

取手は、目視及び手触りによって判定する。

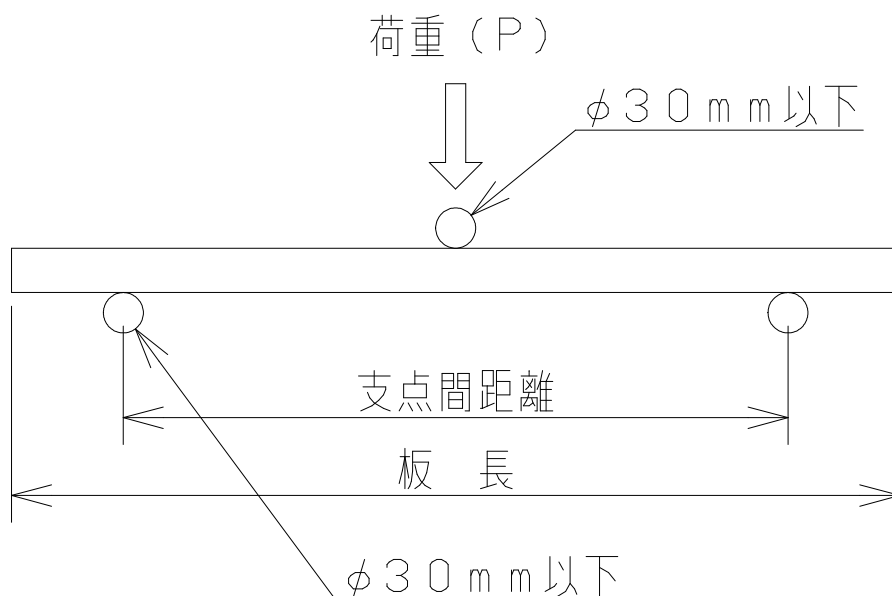
ロックは、開閉ハンドルを使用し開閉が容易か確認する。

4－3． 曲げ強度及び弾性係数試験は、下記に示す通りとする。

J I S K 7 0 5 5 の試験方法に基づき、テストピースを、 $\phi 30\text{mm}$ の支持台
2個の上に置いて、 $\phi 30\text{mm}$ の荷重台を載せ破壊するまで荷重を加える。
試験結果より、曲げ強度・弾性係数を算出する。

テストピースのサイズ	厚み 3 3 mm	幅 5 0 mm	長さ 6 6 8 mm
支持台の支点間距離	5 0 0 mm		
ヘッドスピード	1 7 mm / m i n 以下		

曲げ強度及びたわみ試験状況図



抜き取り検査の比率は、1年に1回行い、製造した原板から任意に抜き取り
5個程度検査を行い、中央値の平均値を算出する。

5. 改訂履歴

- | | |
|---------------------|---------------------------------------|
| (1) 平成 8 年 1 1 月 | F U B 製品仕様書作成 |
| (2) 平成 1 2 年 4 月 | F U B t 4 3 を追加 |
| (3) 平成 1 3 年 1 月 | S I 単位に変更 |
| (4) 平成 1 7 年 3 月 | F U B t 4 3 を削除 |
| (5) 平成 1 8 年 1 月 | 色相番号を変更 |
| (6) 平成 2 1 年 4 月 | 色相番号を変更 |
| (7) 平成 2 4 年 1 2 月 | 色相番号を変更 |
| (8) 2 0 2 3 年 1 0 月 | 製造元変更に伴い下記の 2 点を変更・削除 |
| | 1. 等分布荷重試験の項目を削除 |
| | 2. 曲げ試験及びたわみ試験の名称を
曲げ強度及び弾性係数試験に変更 |
| | 3. 抜き取り検査のロット数から 1 年に 1 回に変更 |